



新潟県納税貯蓄組合総連合会優秀賞

『税金に感謝・繋ぐ未来』

加茂市立須田中学校 三年

織原 おりはら
胡桃 くるみ

私は、税のことについてあまり知りませんでした。強いて言うなら、買い物をするときに国民が平等に支払わなければならない消費税しか知りませんでした。なので、祖父と母に税のことについて聞いてみました。

祖父は、税は私達の暮らしに関わるものに使われているということとを教えてくださいました。母には、「あなたも税金にお世話になっているんだよ。」と言われました。どういうことだろう、と私は不思議に思いました。

私は小さいときから父がいなく、母に育てられてきました。母の収入だけでは私を育てられないので、「児童扶養手当」や「ひとり親医療費助成制度」の援助を受けていることを知りました。

母に「この制度がなければ、あなたはみんなと同じように学校に通えていなかったかもしれないよ。」と言われました。私がこうして今の学校に普通に通えていること、当たり前前に過ごせていることがこんなにも幸せなこと、それは、税金のおかげだということが分かり、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

税金＝支払わなければいけないというあまり良いイメージではありませんでしたが、生活に困っている人や健康、そして様々な暮らしの中で税金が使われているということが私達の暮らしの支えになっていることを知ることができました。

そして私はこれから人生で大きな決断をしなければいけない受験というものが待っています。私の第一希望は私立高校です。私立高校はお金がかかると学校で学びました。今は高校の授業料は無償化になっていますが、所得によって援助される額が異なると聞きました。私が高校生になるとときには保護者の収入に関係なく授業料が無償化になるので、母に、「夢を叶えるためにどうしても私立に行きたいなら、私立を選択してもいいよ。」と言われました。

この高校無償化という制度がなければ受験をする前に、私は夢を諦めなければならなかったのかもしれない。私達が人生において幅広い選択ができるようになったのは、税金がなければできないことだと感じました。

税金について考えたことで、より深く身近に感じ、支えてもらっていることが分かりました。

私もこれから社会人になったら、税金を払っていかなくてはなりません。しかし、働けなくなったら税金に助けてもらわなければなりません。

税金は『幸せの分け合い』で、社会と人を支え、みんなが平等に暮らすためのものだとは感じています。なので、私は大人になっても税金に感謝し、興味を持って税金の理解を深めていきたいと思っています。

